

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 8月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4079400125		
法人名	社会福祉法人 日王福祉会		
事業所名	グループホーム くぬぎの里		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町神崎 1056 - 114 (電話) 0947 - 22 - 0280		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成19年8月11日	評価確定日	平成19年9月27日

## 【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人	常勤 14人 非常勤 14人	常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1 階建ての	階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	8 名	要介護 2	4 名
要介護 3	4 名	要介護 4	1 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83.4 歳	最低 67 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームくぬぎの里は静かな木々に囲まれた小高い場所に位置し、すぐ近くに温泉がありとても住みやすい環境にある。玄関を中心に左右に居室が広がる2ユニットのグループホームで日常生活を送る入居者はとても明るく自分なりの役割を行いながら共同生活を送っている。食材の下ごしらえ、食器洗い、食堂の掃除等を楽しそうに分担している姿が見られた。それを職員が見守り共に作業する姿は親子のようにも見え家庭的な雰囲気を出していた。このように入居者の意思や意欲を尊重しペースに合わせて日々の生活を援助することをホームの理念としている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直し、ホーム内の環境、アセスメント等は、職員の努力で改善されている。理念については分かりやすく表現し掲示方法もなじみやすい。喫煙場所は2ヶ所設置されている。アセスメント計画書は個人の能力やニーズに沿ったものになりつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、前回の外部評価を元に、全職員でミーティングを行い全職員が理解し、改善箇所その他重点項目に関して積極的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の主なメンバーは区長、行政担当者、民生委員、家族代表、入居者代表で構成されている。現在までに3回程の開催がありホーム内の報告や家族からの意見により改善に努めているが、会議の開催に際しメンバーのスケジュール調整が難しい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族からの意見は入居者が安心して日常生活を送ることを希望しているものが最も多くそれに向けて全職員は努力している。意見箱の設置、苦情相談窓口のポスター掲示もあり家族が意見、苦情を伝えやすいように配慮している。現在、家族からは苦情等ほとんど無く入居者は安心して暮らせる環境である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の行事や寄り合いの参加は積極的に行っている。また、近隣の温泉へ職員と入居者が一緒に利用し頻りに足を運んでいる。今後は、災害時に地域住民との連携をスムーズに行い安全な暮らしを提供することが望まれる。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	入居者個人々への思いや地域との関係性を分かりやすくする為にこれまでの理念を全職員で見直した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で決めた理念を玄関や事務室に掲示し職員其々が共有、理解しており入居者への思いやりのある対応等で実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の寄り合いの出席、回覧板も回してもらいたいと地域に溶け込む努力をしている。また、町の文化祭に入居者の作品を展示してもらい入居者も地域の一員であることの意識付けを行っている。中学生の体験学習の受け入れも快く受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については朝礼等で全職員で話し合い取り組んでいる。前回の外部評価での改善点は全職員の意識の統一を計り改善できるよう取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは、地域の区長、民生委員、行政担当者、家族代表、入居者代表で構成されている。平成18年4月より現在までの開催は3回で、ホーム内の報告や家族からの意見を頂き情報交換を行っている。		地域の活動に積極的に参加し地域に溶け込んでいる様子であるが、2ヶ月に1回の開催が行なわれていないので、今後より一層地域とのかかわりを深くするためにも会議でホームの存在や緊急時の援助等運営推進会議を有効活用していただくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の行事に参加しているが、行政担当者との連携においては時間調整がうまくいかなかったり、他の用件等でずれ違いが多い。		ホームのパンフレットを持参しホームでの活動を知らせることでホームの強みを伝えたり、困難な事態の際の相談等を担当者も交えることにより行政と情報交換ができより一層の連携が図られるのではないだろうか。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け周知しているが、職員への研修は行っておらず、職員の知識は充分ではない。		ホーム内で全職員が研修を受けられるよう機会を作り周知、理解することで地域住民等から問い合わせがあった場合などに対応できるようにしておくことが望ましい。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の家族の訪問時や電話にて様子を報告している。また、ホーム内に行事の際に撮影した写真を貼り暮らしぶりを報告しているが、個別に文書での報告がなされていない。		ホーム便り発行しているが、定期的な個別の報告はなされていない。文書にて暮らしぶりやその他状況を報告することで家族の安心感も生まれ、信頼関係を築くことができる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にホーム及び福岡県の苦情相談窓口の記載されたポスターを掲示し家族に分かりやすいようにしている。ホーム内にも意見箱を設置している。また、家族訪問時には職員が話しやすい雰囲気を作り家族からの意見等を聞ける状況作りを努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人間での職員の移動はあまり無い。管理者は新しい職員が入居者と馴染みの関係を築けるようアドバイスを行っている。また、職員も3人1組のチームを編成し複数で入居者を担当しており新しい職員に情報を提供しやすく、馴染みの関係が早期に作れるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用条件は高齢者が好きな人とし、その他の条件等は無い。全職員を常勤での採用としている。管理者は職員の悩みを聞きやすく職員がいきいきと仕事ができるよういがけている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	身体拘束マニュアルを掲示し、職員、家族等は周知しているが職員の人権学習の機会は設けていない。		ホームから代表で人権学習や研修に参加し、それをホーム内で勉強会の形にしたり、外部から、講師等を招き研修を行う方法もあるので、何らかの形で人権について学習されることを期待する。
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	管理者や計画作成者は研修を受講しているが、職員の段階に応じた年間研修計画の作成および実施がされていない。職員に研修の資料を配布し自己研修としている。		今後、年間の新人、現任の研修等の年間計画を作成し職員の段階に応じた研修を行うことで職員の質の向上に努めることを期待する。
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他町のグループホームとの交流を図るために、施設の見学に行ったことがある。		他町のグループホームと何らかの交流はあるが、情報交換や研修といった活動に発展していないようである。グループホームの協議会の確認を行い他の施設と交流をすることで情報交換の機会を作られることを期待する。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	同じ敷地内にあるデイサービスとの交流にてデイサービスの利用者とホームに入居者、職員とが顔見知りになりデイサービス利用者が入居するケースが多い。また、入所前に短期利用も充分利用してもらうことにより入居時の不安解消に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者を人生の先輩として敬う姿勢を全職員が持っている。調理の際は調理方法の指導を受けたり、昔のお謡い等も教えてもらったり、生活の場面で楽しんだり「喜んだり」を共にできる環境づくりを心がけている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者、家族の意向は計画書に記載し、職員が共有できるようにしている</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の状況を家族から聞き取り、家族の意見も個々に検討し個別に具体的な計画書を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度のモニタリング実施。状況や状態が変化すれば計画書を見直している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関はの受診、入居者の希望で外出や外泊の場合、個別に対応し送迎も行っている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人が以前から利用している医療機関をかかりつけ医にしており、状態によって即座に受診している。受診内容は申し送りノートに記載し職員全員で情報を共有している。状態に応じ家族に連絡、報告を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に関わる方針を全入居者、家族に説明している。家族は終末期をホームでお願いしたいと希望されることもあるが、現状として、体制が整えば検討したい。現在、終末期の入居者はいない。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者に接する態度はプライバシーを損なうことのないよう配慮をしている様子がうかがえた。玄関に入居者の顔写真に姓名、生年月日が記載されたものがあり、入居者は了解しているが、家族の了解はとっていない。個人記録は事務室の目に触れる場所に置いてあり鍵のかかる書庫に保管されていない。		入居者と職員の間にはとても良好で人格を尊重する姿勢が見受けられた。そのようなことから、顔写真も貼られているようである。しかし、家族の了解をとっていないことは、本人のプライバシーの保護の面からも問題となりうる場合があるため、早急に家族へ聞き取りをしていただくこととホームも安心ではないだろうか。個人ファイルに関しては施錠のある書庫に保管し第三者の目に触れることの無い様管理することが求められる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の希望に沿い、日々を送れるように職員が対応している。朝の散歩や、外出等の支援、その他、ホーム内でも個人のペースに合わせ休息の時間、テレビを見ること等自由に生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞き取り、一緒に献立を立てている。頂き物があると入居者、職員で考え調理することもある。調理の際は下ごしらえを入居者の能力に応じ行い、後片付けも食器を洗う、拭く、床の掃除をする人と其々が分担し家族的な雰囲気がある。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の能力に応じ希望の時間に入浴できるよう援助している。また、近隣の温泉に職員も一緒に行き入浴を楽しんでいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望があれば、外出時に食事をしてきたり、買い物の支援を行う。また、自室の掃除等はできる限り本人も一緒に行い役割意識を持って頂いている。職員が漢字等解らないときは入居者に教えてもらうこともよくある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝のように散歩に行くことが習慣となっている入居者には職員が付き添う。買い物や、外出も定期的に行なっており、希望があれば、自由に出かけられるような支援体制を取っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が施錠の弊害を理解し、日中は玄関は鍵を掛けていない。家族やその他訪問者は自由に入出入りしている。居室も施錠無く車椅子利用の入居者の居室まで他の入居者が連れて行き自由に行き来している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアル、連絡網等事務室に掲示しそれに基づき避難訓練を実施している。消火器は各ユニット各2個設置。避難訓練に関しては、日中のみで夜間想定訓練は行なわれていない。また、ホーム内のみ訓練となっている。		火事や災害は何時発生するかわからない為、夜間、早朝等の設定することで、あらゆる方法が検討されると思われる。また、消防署への依頼を行い、避難時にいかに早く避難できるか等検知し地域住民の協力はどれくらい得られるか等実際に訓練に関わってもらうよう働きかけると、災害時に不安や焦り等が半減し職員、入居者も心強いのではないだろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者其々に1日の食事、水分の摂取量のチェックを行い記録している。定期的に体重測定実施。咀嚼、嚥下状態により調理、食事の形態を変えている。デイサービスの管理栄養士に献立等見てもらっている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は家庭的雰囲気でありやすい。食堂から庭に出られるが花が植えられており眺めが良い。廊下には所々に椅子が置いてあり休息できるようになっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みのものが置かれ、個性的な部屋になっている。テレビ、冷蔵庫や箆笥等本人が愛用していたものに囲まれて生活している。		